



## 新自由主義と、日本の医療

清田区支部 伊 東 修 一

もし他人に自分の貯金を勝手に盗まれたら、誰でも激怒するでしょう。当然の事です。

しかし壊される財産が自分個人のも物でなく、日本国全体の金だったり、国民にとって大切な社会生活制度だった時に、私達は同様の怒りを示しているのでしょうか？無関心過ぎる事はないのでしょうか？

ここ何年か、新自由主義という言葉を目にする機会が増えました。

マイナスイメージを持つ悪い言葉であるとの認識も、ある程度浸透してきたと思います。

しかしまだ理解は不十分であり、“新自由主義にも良い面があるのではないか？”と考える方もいるかもしれません。しかしそれは完全な間違いです。新自由主義は、一般国民にとって害悪をもたらすだけの完全な悪魔である、と考えるべきです。

言い換えると新自由主義とは、“アメリカ中心の国際金融資本が、他の国々の資産を奪い取るために使う作戦の別名である。”という事です。

自由と言うと聞こえはいいですが、新自由主義で言う自由とは、“国民一人一人が国家に束縛されない自由”などでは決してありません。“大企業や海外資本が、その国の規制に縛られず、好き勝手に金儲けできる自由”の事ですので、間違えないでください。

学問として発生した初期はともかく、現在ではそのような行動を示す言葉です。

少し説明を加えたいと思います。

新自由主義は1960年代、シカゴ大学のフリードマン教授が提唱しました。“市場に全て任せる

とうまくいく”という事です。株式などの金融だけではなく、医療も教育も全て市場に任せるという事です。その思想をアメリカ政府が利用し、フリードマン教授の元で教育された人々（シカゴ軍団と呼ばれます）が、狙いを付けた国々の中枢に入り込み、その国の政治経済を動かします。

彼らの取る政策、方法は、いつでもどこの国でもほとんど同じです。下記の如くです。

“関税など価格規制の撤廃、貿易の自由化、高額所得者の税率引き下げ、公的年金や医療保険の民営化、鉄道電力郵便局など公営企業の民営化、最低賃金規制の撤廃など労働規制の緩和、外資規制の緩和、金融取引の緩和、株式会社の病院経営、国民の社会負担率の増大”などです。

新自由主義者が政治経済に入り込んだ国々で起こる事を順に説明すると、まず、自由化によってアメリカなどから資金が集まり、一時的に実態上昇の無いバブルが起こります。バブルがはじけると海外資本は一斉に逃げ出し、国、自治体、銀行、企業は不良債権を抱えます。そしてリストラ開始。そして企業の価値などが安く評価されている時を狙って、再び海外資本が集まります。この繰り返しで、本来その国の財産だった企業、土地等が外資に買い占められ、その国に集積していた富も海外流出します。

国民の側からすると、賃金は下がり職を失い、電気、水道などのインフラは値上がりし生活が困窮します。医療も年金などの扶助も削減され、貧困層となっていきます。

これが、新自由主義に狙われた国での順に起こる出来事です。

日本だけで無く、どこの国でも同様の経過を取っていますので、上記を記憶ください。

最初に新自由主義の餌食とされたのは、ラテンアメリカの国々です。その中でも当時、裕福な国家であったチリ、アルゼンチンが最初に狙われました。

チリでは1973年、社会主義者であったアジェンデ政権をクーデターで倒して（このクーデターはアメリカの主導です）、ピノチェト軍事政権が誕生し、ここにたくさんのシカゴ軍団が入り込みました。

アルゼンチンでは、1976年ビデラ軍事政権が、同様にクーデターで誕生しました。

強引に軍事政権を誕生させ、シカゴ軍団を内部に送りこむやり方は全く同様です。

この後、上記の政策を実行に移すわけです。国は徐々に衰退し、国民は貧困となります。

しかし、上記2カ国は、その後は違う経過を取ります。

チリでは1989年、中道左派連合の勝利で、軍事政権は終わりを告げました。新自由主義を否定する政権が誕生し、電気、水道などインフラを国営化し、国民への社会保障も厚くしていきます。その後経済は徐々に好転し、現在は安定した国家運営をしています。

対してアルゼンチンは、1990年代、カバロ経済大臣の元（新自由主義者です）、再び貿易自由化、民営化の徹底が行われました。再び上記の新自由主義のサイクルを繰り返し、ついに2002年、国家破産に至ったのです。

そして皆さんご存知と思いますが、“更なる改革の徹底をしなければいけない”と叫んでいる政治家、経済人が、日本にも現在存在しています。彼らの正体がはっきり分かるといいます。

上記のラテンアメリカでの出来事は、小泉首相以降の日本の状況と同じです。日本でも、新自由主義者が政権内部に入り込み、強力な権力を持った結果です。竹中元大臣を筆頭に、一般

国民に対して不利益な事を言い続けていました。医療状況も、その頃から急激に悪化したのは、皆さんも感じていることと思います。

今でも政府が目論む混合診療の導入、株式会社の病院経営、公的保険の縮小、などの医療政策は、新自由主義者の行う常套手段です。日本で現在行われようとしている医療状況そのものですから、いまだに新自由主義者が日本の政権内部で強い力を持っている良い証拠と成るでしょう。

医師会と厚生労働省が話し合い一度は解決したつもりでも、その後何度でも混合診療導入などを蒸し返す政治家、マスコミの存在も、新自由主義者の後ろ盾の結果でしょう。

結論として、医療政策だけを問題として解決しようとしても、新自由主義者が政治の中核にいる限り、話し合いその時解決したつもりでも、その後も際限なく医療崩壊への発言を彼らは繰り返すという事です。

そして守るべき医療制度を一度突破されてしまうと、その後はどんどん崩壊に向かっていくでしょう。

だとすれば、我々はどうすればいいのか。

新自由主義者を権力の外に完全に排除するしかありません。そして排除した後も、常に新自由主義的な発言をする政治家がいないかどうかを強く監視する必要があるでしょう。

現在の医師会は、新自由主義者には反対をし、しかし新自由主義者がいまだに強い力を持つ政党を支持するという行動をしています。

この後新自由主義を排除するための方法論は、各人違うでしょうが、医療者の政治への継続した発言と監視が、日本国民にとっての良い医療制度を守る上で不可欠であろうと考えます。ある程度政治に関心を持たなくては、医療制度も我々の生活も守れないという事です。

黙っているだけの事なかれ主義で通用する時代は、既に終わっています。

ラテンアメリカと同様の結果は、ニュージーランド（郵政民営化をするも、新自由主義政権

が敗退し、交代後に再び国営銀行の創設を始める)、オーストラリア(新自由主義を進めた首相が率いる政党が、昨年末敗れる)等、世界中で見る事ができます。

このままの状況で日本が進んでいった時、どんな未来が待っているかは、現代史に興味を持って調べていくと分かる事が多いです。

日本の現状にたくさんの文句ばかり言っている私も、実は今の日本にかなり満足しています。この世には趣味の世界を含め、興味を引く

事がたくさんあります。美しい自然も、おいしい食べ物もあります。

こんな楽しい世の中が永遠に続くといいといつも思います。

しかし、黙っていると、他人に壊されてしまう物も多いです。

医療制度を含めた現在の繁栄を守るため、皆さんが少しでもいいから、奪われている世界の仕組みに興味を持っていただける事を、期待したいと思います。

(美しが丘いとう内科)